

35. 野生動物研究センター

(1) 野生動物研究センターの研究目的と特徴	35-2
(2) 「研究の水準」の分析	35-3
分析項目Ⅰ 研究活動の状況	35-3
分析項目Ⅱ 研究成果の状況	35-6
【参考】データ分析集 指標一覧	35-7

(1) 野生動物研究センターの研究目的と特徴

野生動物に関する研究をおこない、京都大学の基本理念である「地球社会の調和ある共存に貢献する」ことを目的とする。また、ヒトを含む幅広い動物の基礎的な研究を通じて、人間の本性についての理解を深めることを目的とする。具体的な課題は次の3点である。

- 1 絶滅の危惧される野生動物や、貴重な生態系において重要な位置を占める野生動物を対象とした基礎研究を推進する。これを通じて、野生動物やその生息地の保全をはかる。
- 2 飼育下における動物を対象とした基礎研究を推進する。多くの野生動物、特に絶滅の危惧される動物は、野外での研究は困難なことが多く、飼育下での基礎研究は貴重な情報源となる。飼育下での基礎研究をつうじて、野生下の動物の保全と、飼育下の動物の健康な飼育と繁殖をはかる。
- 3 フィールドワークとライフサイエンス等の多様な研究を展開し、これらを統合した新たな学問領域の創生を目指す。このような幅広い、学問領域での総合的研究を通じて、人間とそれ以外の生命の共生をはかる。

(2) 「研究の水準」の分析

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

<必須記載項目1 研究の実施体制及び支援・推進体制>

【基本的な記載事項】

- ・ 教員・研究員等の人数が確認できる資料（別添資料 5235-i1-1）
- ・ 共同利用・共同研究の実施状況が確認できる資料
（別添資料 5235-i1-2～4）
- ・ 本務教員の年齢構成が確認できる資料（別添資料 5235-i1-5）
- ・ 指標番号 11（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 共同利用・共同研究拠点として、国内外の研究者と野生動物の保全や、保全に資する基礎研究を推進している。年間に約 100 件の共同利用研究を実施し、約 60 報の論文として報告している。動物園・水族館は、野生動物の保全や基礎研究の重要な拠点であり、保全研究に関心の高い職員も多い。動物園・水族館の職員が主体的に関わる研究も支援し、動物園・水族館での動物の保全をテーマにしたシンポジウムを毎年 1 回以上開催している。 [1.1]

また、海外の研究機関とも連携をすすめ、絶滅危惧種を含む野生動物の共同研究や若手研究者の育成にも力を入れている。 [1.0]

<必須記載項目2 研究活動に関する施策／研究活動の質の向上>

【基本的な記載事項】

- ・ 構成員への法令遵守や研究者倫理等に関する施策の状況が確認できる資料
（別添資料 5235-i2-1～10）
- ・ 研究活動を検証する組織、検証の方法が確認できる資料
（別添資料 5235-i2-11～14）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 希少な大型哺乳類を含む野生動物の保全に資する研究を、海外の研究機関とも連携しながら進めている。海外の研究機関との MOU は 2019 年度で 14 件である。野生動物は動物園・水族館においても健全に飼育・繁殖させることによって保全をはかる必要がある。国内の計 18 の動物園・水族館と連携協定を結び、動物の基礎研究を推進している。 [2.1]

京都大学野生動物研究センター 研究活動の状況

- 採用や運営において特段に女性が不利になることがないように配慮している。専任教員6名のうち2名(33%)が女性教員となり、2015年度末より1名増加した。また、2017年度よりセンター長が女性となった。特定教員として若手研究者5名(うち女性3名)を採用し、教員全体では45%が女性となっている(2015年度末は28%)。研究や運営においても特に性別による偏りを意識することない状態となりつつある。
- [2.2]

<必須記載項目3 論文・著書・特許・学会発表など>

【基本的な記載事項】

- ・ 研究活動状況に関する資料(理学系)
(別添資料5235-i3-1)
- ・ 指標番号41~42(データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

<必須記載項目4 研究資金>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号25~40、43~46(データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

<選択記載項目B 国際的な連携による研究活動>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 国際共同研究を推進し、毎年10~20件の国際共同利用研究を行っている。[B.1]
毎年、海外から若手研究者を15名招聘し、国内でのフィールド調査や、野生動物から採取した試料分析などの共同研究や研修を行っている。[B.2]
毎年、4回の国際シンポジウム・ワークショップを開催し、連携する海外学術機関や学内外の研究者との国際的な交流や情報交換を図っている。うち、1回は海外でのワークショップを海外の連携機関と共催し、現地の野生動物調査地の視

京都大学野生動物研究センター 研究活動の状況

察を行っている。これにより連携国の研究者とのより密接な交流を計っている。リーディング大学院の中核部局として、大学院生の教育を進めている。海外連携機関との共同研究を通じて、本センターでの研究を希望する大学院生も増え、2019年度には留学生が10人となった。2015年度末の0名より大幅に増加した。[B. 2]

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

<必須記載項目1 研究業績>

【基本的な記載事項】

- ・ 研究業績説明書

(当該学部・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準)

当センターの重要な目的として、野生動物を対象とした基礎研究を推進し、野生動物の保全を進めることがある。研究対象としては、野外の生息地にすむ動物はもちろんであるが、希少な野生動物については動物園、水族館など、飼育下の動物も含んでいる。飼育下の動物を健全に保持し繁殖させることで、将来的に野生への再導入が可能になるためである。このような目的に貢献が高い研究を選定した。

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
5. 競争的外部 資金データ	25	本務教員あたりの科研費申請件数 (新規)	申請件数(新規) / 本務教員数
	26	本務教員あたりの科研費採択内定件数	内定件数(新規) / 本務教員数 内定件数(新規・継続) / 本務教員数
	27	科研費採択内定率(新規)	内定件数(新規) / 申請件数(新規)
	28	本務教員あたりの科研費内定金額	内定金額 / 本務教員数 内定金額(間接経費含む) / 本務教員数
	29	本務教員あたりの競争的資金採択件数	競争的資金採択件数 / 本務教員数
	30	本務教員あたりの競争的資金受入金額	競争的資金受入金額 / 本務教員数
6. その他外部 資金・特許 データ	31	本務教員あたりの共同研究受入件数	共同研究受入件数 / 本務教員数
	32	本務教員あたりの共同研究受入件数 (国内・外国企業からのみ)	共同研究受入件数(国内・外国企業からのみ) / 本務教員数
	33	本務教員あたりの共同研究受入金額	共同研究受入金額 / 本務教員数
	34	本務教員あたりの共同研究受入金額 (国内・外国企業からのみ)	共同研究受入金額(国内・外国企業からのみ) / 本務教員数
	35	本務教員あたりの受託研究受入件数	受託研究受入件数 / 本務教員数
	36	本務教員あたりの受託研究受入件数 (国内・外国企業からのみ)	受託研究受入件数(国内・外国企業からのみ) / 本務教員数
	37	本務教員あたりの受託研究受入金額	受託研究受入金額 / 本務教員数
	38	本務教員あたりの受託研究受入金額 (国内・外国企業からのみ)	受託研究受入金額(国内・外国企業からのみ) / 本務教員数
	39	本務教員あたりの寄附金受入件数	寄附金受入件数 / 本務教員数
	40	本務教員あたりの寄附金受入金額	寄附金受入金額 / 本務教員数
	41	本務教員あたりの特許出願数	特許出願数 / 本務教員数
	42	本務教員あたりの特許取得数	特許取得数 / 本務教員数
	43	本務教員あたりのライセンス契約数	ライセンス契約数 / 本務教員数
	44	本務教員あたりのライセンス収入額	ライセンス収入額 / 本務教員数
	45	本務教員あたりの外部研究資金の金額	(科研費の内定金額(間接経費含む) + 共同研 究受入金額 + 受託研究受入金額 + 寄附金受入 金額)の合計 / 本務教員数
	46	本務教員あたりの民間研究資金の金額	(共同研究受入金額(国内・外国企業からのみ) + 受託研究受入金額(国内・外国企業からのみ) + 寄附金受入金額)の合計 / 本務教員数